

参加者の声

“お互いの思いやりが大事”という意見もありましたが、まさにその通りで、基本的な“気持ち”が大事なのだと思います。他の管理職や管理職候補にもぜひ受講してもらいたいです。

日々お客様に寄り添うことを中心に思っていたのですが、それ以上に職場内の雰囲気づくりや環境を整えていくことが大事だと感じました。ハラスメント対策ではなく、そのようなことが起きない環境作りを考えていきたいです。

VRを用いることで新鮮な気持ちで受講できました。内容も難しくすぎず、堅すぎず頭に入りやすいものでした。それだけで、ハラスメントという問題について考えさせられる内容でした。

くり返し、習慣の恐さ、知らないこと、ズレの多さ。興味、対話の大切さ等、再認識させていただいた。

形は違えど多少自分にも思い当たるふしがあり反省した。

VRでその人の立場になりやすく、対処方法が導きやすかった。

料金プラン

■ 講師派遣型

プログラム名	項目	単価	数量	計(税抜)
VRを活用した ハラスメント研修 (参加者20名の場合)	プログラム料	350,000円	3時間	350,000円
	参加費 (教材・VR含む 20名まで)	250,000円	20名	250,000円
	合計			600,000円
	参考:一人当たりの料金			約30,000円

※1クラスは最大50名
※講師の宿泊費・交通費は別途ご請求いたします。

※20名を超える場合は追加@10,000円/人となります。
※VR発送費@20,000円/開催毎は別途ご請求いたします。

■ 公開セミナー型

コース名	対象	研修期間	参加料(税抜) /1名	開催地	日程	締切
VRを活用した ハラスメント研修	主に管理者 および 経営幹部	3時間 (午後)	30,000円	東京	2020 5/22(金)	2020 4/10(金)
					6/10(水)	4/29(水)
					10/21(水)	9/ 9(水)
					11/11(水)	9/30(水)
				大阪	2021 2/10(水)	2020/12/30(水)
				名古屋	2021 3/12(金)	2021/ 1/29(金)
				2020 6/17(水)	2020/ 5/ 6(水)	

※詳細(お見積り・キャンセル規定等)は、営業担当またはセミナー推進部へお問い合わせください。

管理者向け

VRを活用した ハラスメント研修

対話が途切れるハラスメント研修から、
対話が促進されるハラスメント研修へ

お問い合わせ先

株式会社 日本能率協会マネジメントセンター
組織・人材開発事業本部 セミナー推進部 Tel:03-6362-4350 Mail:college@jmam.co.jp

JMAM
JMA MANAGEMENT CENTER

JMAM
JMA MANAGEMENT CENTER

今、ハラスメント教育が注目される背景

パワハラ対策の義務化



職場におけるパワハラ等が急増・深刻化していることを受け、女性活躍・ハラスメント規制法が施行。2020年6月より大企業、中小企業は22年4月より対策が義務化されます。

どこまでが指導!? どこからがハラスメント!?



ハラスメントに対する危機感が高まるとともに、管理者は「どこまでが指導で、どこからがハラスメントなのか」の判断に悩むケースが増えてきました。自信を持ってマネジメントを行うためにも、ハラスメントの定義と判断軸の形成が重要になります。

マンネリ化した ハラスメント教育からの脱却



講義中心のハラスメント教育は、知識の理解は深まりますが、どうしても自分ごととしてとらえるにはハードルがあります。体感し、交流しながら、動きのある研修の中で、組織活性化につなげるためのハラスメント教育への転換が求められ始めています。

プログラム

VR研修 2時間

ダイアログ研修 1時間

VR研修

2時間

チェックイン

- ・ハラスメントの実態
- ・VRについて



VR体験①

感情の再現

- ・グループワーク：感想交流



VR体験②

空気感の再現

- ・グループワーク
- ・ハラスメントの定義



VR体験③

職場の再現

- ・対話の重要性
- ・労務知識の重要性
- ・アンコンシャスバイアスの理解



ダイアログ研修

1時間

ダイアログ (対話)へ

- ・ダイアログワーク
- ・チェックアウト



VRハラスメント研修の特長

研修前 ———— 閉ざされた関係



VRを活用した
3つの
リアル体験

50名
までの
対応も可能

3時間
での学び

研修後 ———— 開かれた関係へ

VRストーリーの例



うっかりミスが多い新人・新谷が、伊藤課長のところに相談と報告にやってきます。伊藤課長は多忙さから新谷にイライラ。つい当たりがキツくなってしまいます。場面は変わって、今度は伊藤課長が部長に呼ばれます。部長のやり方で課長に“発破”をかけますが……。世代別のやっつけまいがちなハラスメントの、する側とされる側の気持ちを体感します。

VRを活用した「3つのリアル体験」とは



一人称での
体験

VRを介することで「自分がどう感じたか」という1人称の体験を得ることができます。



自分ごとを
作り出す感情体験

「怖い」「気持ち悪い」などの感情体験は、瞬時に「自分もして!」「わかる!わかる!」など「自分ごと化」し、当事者意識を醸成します。



組織・チームの
共有体験

VRの映像では、全員が一度に同じ体験をすることができるため集団での理解や共感を深めます。

ハラスメント体験

感情の再現

まず、VRで自身がハラスメントをする側とされる側を体験します。VRならではのリアル感で、当事者の気持ちを実感します。

ハラスメントを知る①

空気感の再現

被害者でも加害者でもない、「間接被害」の体験をします。自職場の空気感の振り返りや、直接被害を受けなくても嫌な気分になった経験などの振り返りを通して職場の安全配慮義務について学びます。

ハラスメントを知る②

職場の再現

一生懸命やっているつもりの上司が、自覚はないがハラスメント通告を受けそうになる体験をします。体験を通じて対話の重要性を学びます。

VR体験の流れ